

簡易評価法で94%が「問題あるギャンブラー」

RSNが上半期の相談事業内容を13項目に分け報告

全日遊連の第三者機関「ばちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN、西村直之代表理事)の月刊機関誌「さくら通信」43号(11月25日発行)が、2010年度上半期(10年4月1日～9月30日)相談事業について、誌面で報告した。RSNが用いた「簡易評価法」で「問題あるギャンブラー」と評価されたのは有効回答(本人のみ)320件のうち94%もあり、「9割以上が問題あるギャンブラーレベルである、ということが数値的に確認できた」と指摘している。

月別相談件数は4月117件、5月133件、6月125件、7月93件、8月95件、9月120件の合計683件で、月平均は約114件。昨年度上半期の740件、月平均約123件と比べて、合計で57

件、月平均で約9件減少している。

性別分けでは、「コーラー」(電話相談者)は55%が男性、45%が女性、「対象者」(問題視されている、あるいは問題を抱えている本人)は71%が男性、28%が女性で「前年度と比較して、割合に変化は見られませんでした」とのこと。「コーラー」の年齢では、「コーラー」のうち「本人」は20代から40代が78%で、最も多いのは30代。「コーラー」のうち「家族・友人」は

30代が最も多く、次いで40代、50代が多い。

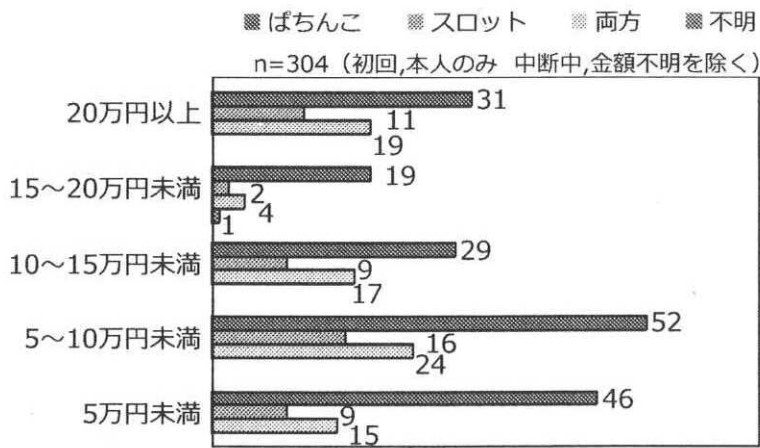
上半期の合計683件のうち間違い、無言、問い合わせや複数回日の電話を除いた相談件数は561件。561件に対して、相談員がどのような施設やグループを紹介するかは相談内容によってケースバイケースで、相談者が本人の場合(397件、71%)に最も多いのはギャンブラーズ・アノニマス(当事者自身たちの相互援助グループ)の144件だった。

以下、

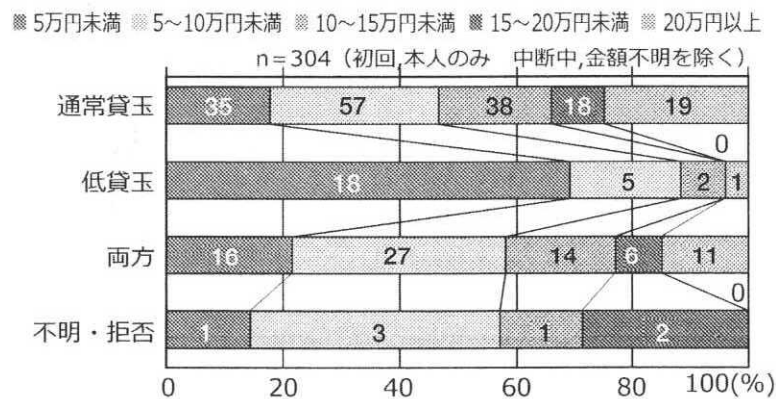
以下、ワンデーポート27件、医療機関13件(主治医戻し含む)の順。
1カ月の遊技代は5万円から10万円未満という回答が最も多く、5万円以上が全体の77%を占めた。機種(パチンコかスロットか)と金額分布との関係は見られなかったという。

このうち高額ユーザーは「通常貸玉」に多く、「低貸玉」のユーザーは金額が低い傾向だが、「両方」の金額分布は「通常貸玉」に類似している。「低貸玉」ユーザーの中には「20万円以上」もいて、「通常貸玉」で遊ばなくなった人たちが、「低貸玉」「両方」のユーザーとなっているようです。「低貸玉」ユーザーにも問題あるユーザーが存在していることを認識しておく必要があります」としている。

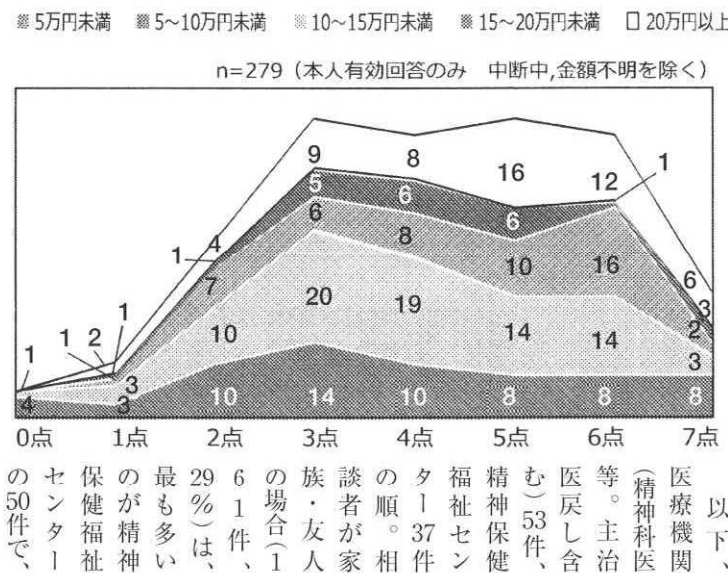
1カ月の遊技代—機種別



1カ月の遊技代—貸玉の種類別



1カ月の遊技代—SOGS評価別



10年度上半期の相談事業の報告は13項目に別れている。その最後は「1カ月の遊技代—SOGS評価別」という項目で、これは「問題あるギャンブラー」と評価する。有効回答(本人のみ)の平均は4.16点で、2点以上の割合が94%もある。「RSNに電話をかけてくる本人の9割以上が問題あるギャンブラーレベルである、ということが数値的に確認できました。0点では10万円以上の回答はありませんでしたが、1点以上では、全ての金額群に相談者が分布していました。金額の大小だけでは問題あるギャンブラーかどうか、問題レベルが深刻かどうかは判断できないことが分かります」とまとめている。